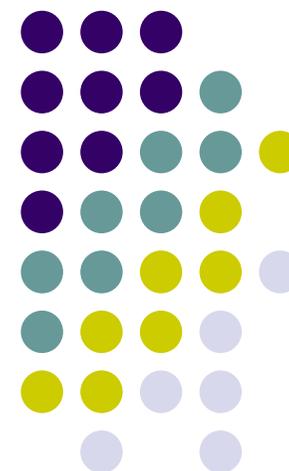


「教会とリタージョー：キリスト教靈性との関連で」

総括

日本福音主義神学会西部部会秋季研究会
2004.11.29 神戸改革派神学校にて
関西聖書学院 組織神学講師
山崎チャペル・一宮基督教研究所：安黒務
<http://www.aguro.jp/>





開会礼拝と分科会発表

1. 開会礼拝

工藤弘雄理事長

2. 礼拝者が形成する教会

関西聖書学院 南大阪福音教会 福野正和師

3. 戦いの中に平和を求めて

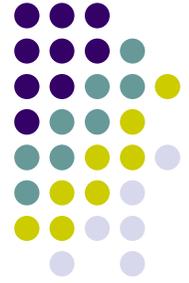
福音聖書神学校 能勢川キリスト教会 井草晋一

4. コヘレトの世界観とHEBEL

関西聖書神学校 名谷教会 鎌野直人

5. 改革派契約神学の史的展開とその特質

神戸神学館教師 東須磨教会 坂井純人



教会のリタージ

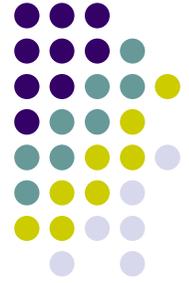
1. **教会のリタージ：キリスト教的靈性の社会的表現として**
- 福音主義教会におけるリタージの意義と位置づけ
神戸改革派神学校 市川康則師
2. **ルーテル教会の立場から**
- リタージのもたらすものと今後の展望 -
神戸ルーテル神学校 有木義岳師
3. **リタージの中心としての詩篇と靈性**
神戸神学館 瀧浦滋師
4. **ウェスレーの聖餐論に見る今日的意義**
関西聖書神学校 大塚篤
5. **質疑応答**
神戸ルーテル神学校 正木牧人師

総括と閉会

安黒務



1. コーディネーターのひとりとして推薦
 1. リターンジー:「専門領域ではないので...」
2. 牧田師
 1. 「皆、引き受けてから、その分野の勉強をするんですよ。」
3. 三人の相談の過程で
 1. いつのまにか - 「総括」の分担を引き受けることに



「リタージェー」とは何か？

1. 定義の多様性

1. 洗礼と聖餐の聖礼典？
2. 礼拝式文まで含むのか？
3. 原語にさかのぼって

1. リタージェー = レイトウルギア = エルゴン「仕事」 + ラオス「人々」 = 神に仕える人 = 他者の益のためになされる人々の働き
2. リタージュカルな礼拝
 1. 礼拝参加者が共に礼拝を守るために各人がそれぞれの役割を積極的に果たしている状態



「固定された諸様式」と「自発性」 という二つの要素の関係・バランス

- 丸山忠孝師『教会組織』
 - 教会組織における秩序とカリスマ間の調和とバランスは、教会のあり方を決定するほどの重要性を持つ
 - 秩序指向的
 - ...役職や制度に権威のよりどころを求める傾向
 - 自由指向的
 - ...霊的な賜物や異常な力に権威のよりどころを求める傾向
- 宇田進師『教会論』
 - 両面を、例えば根と実との相互関係のように一つの不可分的な運動としてとらえなければ、教会の着実な伸展に資する健全な理解とは言えない
 - 制度的側面
 - ...すでに樹立された歴史的・社会的秩序の諸関係と諸様式、一定の形態と構造
 - 出来事的側面
 - ...聖霊によって動的・精力的に何かが起ること、人間の応答の自発的性質と恵みにおける共同体の生活の過程的性格
- 「リタージェー」で扱われる部分 - 固定された諸様式の関係が多い
 - 礼拝・礼典の式文の刷新運動 - リタージュカル・ムーブメント
 - 「聖餐論」にしばって検討



エリクソンの神学を座標軸として

1. 総括するにしても、
 1. 何かを基準として
 2. 批評し
 3. ひとつのガイドラインを提示
2. 専門領域 - 組織神学
 1. エリクソン『キリスト教神学』を座標軸として
 2. 総括者の視点から

聖餐におけるキリストの臨在 多様な見方



1. カトリックの見方：
 1. The bread and wine **are** the physical body and blood of Christ.
 2. パンと葡萄酒はキリストの物質的なからだであり、**血である**。
2. ルター派の見方：
 1. The bread and wine **contain** the physical body and blood of Christ.
 2. パンとブドウ酒は物質的なからだと血を**含んでいる**。
3. 改革派の見方：
 1. The bread and wine **contain spiritually** the body and blood of Christ.
 2. パンとブドウ酒はからだと血を**霊的に含んでいる**。
4. ツウィングリ派の見方：
 1. The bread and wine **represent** the body and blood of Christ.
 2. パンとブドウ酒はからだと血を**象徴している**。



スウェーデン・バプテスト系 ミラード・J・エリクソン
『キリスト教神学』における聖餐論

1. **文字通り**に解釈すべきか、**隠喩**として解釈すべきか？
 1. 道、真理、いのち:ぶどうの木と枝:良い羊飼い:いのちのパン
 2. 「...を**象徴**している。...を**意味**している。」の意味
2. キリストの**特別な**臨在があるのか、**通常**の臨在にとどまるのか？
 1. マタイ28:20、マタイ18:20
 1. あらゆるところに、時代を超えて、特に信者の集まりにおいて
 2. **聖餐における臨在へのパウロの言及なし**
 1. コリ11:26 主の死を告げ知らせる - 儀式は記念である
 3. **聖餐 = 主の関係・交わりのとき**
 1. サクラメント = キリストの臨在の視点 ×、キリストとの親密な関係の潜在性の視点から
3. **穏健カルヴァン主義**
 1. ツウイングリ的スタンス



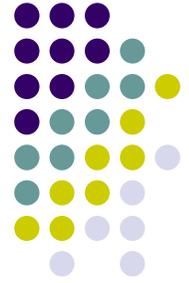
1. ホワイト: 『キリスト教の礼拝』、 『キリスト教礼拝の歴史』
 1. “リタージ”という用語の理解 - 多様な幅
 2. 20世紀最後の10年間、1990年代の北米からの視点
 1. ルター派、改革派、再洗礼派、アングリカンの礼拝伝統
 2. メソジスト派、フロンティア(リバイバル)派、ペンテコステ派の礼拝伝統
2. 諸教派間の「礼拝伝統の特色」
 1. 教会への帰属意識、関係意識
 2. いのちにあふれた、キリストの現臨在を経験できる礼拝
 3. その教派の独自の神学、教会観が、礼拝の中で表現されている礼拝
 4. 単なる野合ではなく、異なった教派の神学的立場、信
冬、理今 礼拝組 聖餐論等の敬音を伴った相互理解

シカゴ・コール

< 本来の礼典観を確立することへの呼びかけ >



「われわれは福音主義者の間に見られるサクラメンタルな理解における貧困を批判する。特に教父たちや宗教改革者たちの教説との連続性を見失った結果、われわれの教会内にサクラメンタルな生活の退化をもたらした。また、この世界でなされている神の働きのサクラメンタルな性格を見失うことによって、しばしばキリスト者の日常生活の神聖性を軽視するという結果が生じている。」



シカゴ・コール 解説

- これがために、われわれ福音主義者は、創造と受肉が有している sacramental な意味に目覚めるよう呼びかける。なぜなら、歴史的教会は、これらの教理をとおして、神の活動が実体のある形で展開されることを主張してきたからである。われわれは、神の恵みが、洗礼と聖餐の二礼典において、信仰をとおし、聖霊の働きによって、はっきりと伝達されることを再確認する必要がある。
- 教会はその礼典をとおして、生涯その会員を御国の完成の期待のうちに養うとともに、キリストの死と復活を宣べ伝え、それを記念し、かつそれに参与するのである。また、われわれは“生きた手紙”という聖書の表現を覚えなければならない。なぜなら、それによって、キリスト者の日常生活の sacramental な性格が表されるからである。